

# 「お寺 離れるわけには…」

## 住職夫妻境内での車中泊続く

このままにしておくのは申し訳ない」と、罹災状況の審査を待たず、自費で心急如置の補修工事を始めた。

同寺の近くで暮らす門徒総代長の田中隆敏さん(64)は、自宅と物置小屋が損壊した。「こんな大きな被害を受けたのは初めて。自然の力に何もできず、ぼうぜんとして立ち尽くすだけ。本堂のサッシも昨年に入れ替えの改修をしたばかりなのに」とうなだれていた。

小夏住職の案内で、門徒宅が多い甲佐町府領地区を訪ねた。

牧野勝人さん(73)の自宅には「危険」と書かれた赤色の紙が張られていた。牧野さんは「倉庫が倒壊してしまい農機具も取り出せない。今年は稲作を諦めるしかないですね」と語る。

牧野さんは10日間車中泊を続けたという。足に

むくみが出てきたことから医師に止められた。「今は、危険とわかっているけど自宅ですべて寝ています。でも、すぐに外に逃げられる縁側の部屋。風呂は親戚を頼って借りている。家族6人、無事でいられただけでもよかったと思

い、今の生活を耐えています」と話した。自宅が全壊した中村公明さん(60)は「今は親戚を頼って避難生活を送っています。仕事の合間を見て、自宅の片付けや、田植えの準備をしています」と話す。府領地区の近くに仮設住宅建設が予定されているが、そこまでの橋が壊れたため迂回しなければならぬという。中村さんは「仮設住宅は遠くても仕方がない。早く入居したい」と疲れた表情で語った。



本堂軒下に幅20センチの亀裂

### 御船町・金光寺

益城町の南隣となる御船町の陣地区にある金光寺(小夏憲雄住職)は本堂と庫裏の基礎がずれ、ガラスサッシは無残に砕け散った。瓦はずれ落ち、漆喰壁が剥がれて屋根はブルーシートに覆われる。境内の地面に亀裂が走り、本堂の床下には20センチ幅の地割れが生々しく残る。

小夏住職夫妻はこの1カ月、境内に自家用車を停め、夜はその中で寝ている。小夏住職(62)は「16日未明の地震で大きな被害を受けました。今

も震度5程度の余震があると言われており、倒壊するかもしれない庫裏で寝るのは怖い。かと言って寺から離れるわけにはいかない」と話す。昼間は、坊守の貴代さん(57)と片付けに追われている。

小夏住職は「ご門徒の被災状況が気になるが、連絡役の門徒総代さんがどこに避難されているかさえもわからない。わかるのは連絡をいただいたご門徒だけ。中には、避難所から身内にいるほかの地域に身を寄せる方もあり、またこの地区に帰ってこられるかどうか」と肩を落とす。

震災から1カ月。陣地区はまだ行政の被害調査が行われていないという。小夏住職は「本堂を

震災から1カ月。陣地区はまだ行政の被害調査が行われていないという。小夏住職は「本堂を



熊本県甲佐町の門徒・中村さん宅も甚大な被害を受けた。倒壊し、「危険」の赤い紙が張られていた